

第3回「戦争と医の倫理」の検証を進める会・常任世話人会報告

- ◇日時 2010年4月11日(日) 13時～16時
- ◇場所 全国保険医団体連合会 会議室
- ◇参加者 石川徹、塩安佳樹、西山勝夫各代表世話人、赤羽根巖、蒔昭三、車谷容子、中泉聡志、光石忠敬、山口研一郎、吉中丈志各常任世話人、住江憲勇事務局長、香山リカ、川村実、村林彰各世話人
(事務局) 木村徳秀、杉浦秀明、相場康文、原文夫、室井正、小林耕治各氏
- ◇議長 石川徹代表世話人
議長より、会議に初参加の香山リカ世話人(立教大学教授)、相場康文事務局長(千葉県保険医協会事務局長)の紹介があり、二人から挨拶が行われた。

◇ 報告・協議事項

1. 前回会議報告の確認について

第2回常任世話人会(10.1.11)会議報告、第3回世話人会(10.2.11)会議報告について確認した。

2. 第28回日本医学会総会等への要請について

住江事務局長より、この間の対応と今後の予定について報告と提案が行われた。報告の要点と今後の対応予定は下記のとおり。

- (1) 常任世話人の知人関係を通じ、この間、東大医学部教授、及び医学会総会役員関係者と個別に懇談し、趣旨の理解と一定のご協力もいただいた。しかし、全体として医学会総会の企画案が進行しており、現状では医学会総会企画への反映が困難な状況にある。
- (2) 今後の対応では、
 - ①日野原重明顧問(聖路加国際病院理事長)と4月20日に懇談し助言等をいただく。
 - ②日本医師会の原中新会長への要請を予定する。進め方としては、保団連の住江会長(当会事務局長)が原中新会長と懇談を予定していることから、その関係での接点を大事にしながらか、当会としても懇談を要請する。要請文については、当時の日本医師会植松会長との懇談の経緯などにも触れ、継続的な課題であることがわかるよう補足する。
 - ③日本医史学会(酒井シヅ理事長)、公衆衛生学会関係者への懇談等を具体化する。

3. 防衛省への731部隊等に関する資料公開要請について

事務局より、民主党・企業団体委員会を通じ要請したことに対する回答の経過と今後の対応について、報告と提案が行われた。その要点は、下記のとおり。

- (1) 要請に対する回答は、民主党・生方幸夫副幹事長室から「防衛三役で検討された回答」として4項目の簡単なメモがFAXで届いた(戦医研にも同文がFAXで届いた)。
4項目の要点は、①戦史調査研究に資するため防衛研究所でも米国からの返還資料を保存、②米国からの返還資料に目録は添付されておらず、受領した際に個別目録も作成していない、③返還資料は、個人のプライバシー保護等の観点から公開審査のうえ、原則公開。非公開資料はリストを公開、④防衛研究所保存の各種資料のうち、731部隊に関する資料(29点)は公開している、との内容である。

このFAXメモに対し、これが正式回答なのかなどを確認したところ、「善意で先にお知らせしたままで、正式な回答文書は後日、幹事長室から出される。それを見てほしい」

とのことであった。しかし、1ヶ月経過しても回答文書が届かないので生方議員室に再確認したところ、「民主党・企業団体委員会から回答する」と説明が変更した。その後、民主党・企業団体委員会の担当者から、文書ではなく口頭で回答するとして、電話で前述の4点が伝えられた。これに対して疑問点などを質したが、①文書での回答はしていない、②回答の元は防衛省ではなく生方副幹事長からの情報である。③29点の資料は手元に受けていないので渡せない。必要なら再要請してほしい、④防衛省の回答か、民主党の回答かが不明確と受け取られてもやむをえないが、今後の対応は企業団体委員会を通さなくてもよい、などであった。

以上のように、回答責任の所在が不明確であり、かつ内容的にもきわめて不十分な回答である。

(2) 今後の対応について

①29点の公開資料の入手と検討について

先行して要請した「731 細菌戦部隊の実態を明らかにする会」ですでに資料入手の手配をし、資料集作成の準備をしている。「731 細菌戦部隊の実態を明らかにする会」からは、作業の効率化も考え、明らかにする会で資料集を作成し進める会、戦医研には実費で活用できるようにしたいとの意向が報告され、了解した。

②政府・防衛省への再要請について

今後は、防衛政務官の長島昭久議員が塩安代表世話人の地元でもあり、東京保険医協会ともかかわりがあるので、当面、長島昭久防衛政務官への要請を検討する。民主党・企業団体委員会は通さずに行う。再要請の内容については、当会世話人で「731 細菌戦部隊の実態を明らかにする会」代表の松村高夫先生とも連携して具体化する。

③国会、マスコミ等への対応について

前述の対応の経過も見ながら、国会・関係委員会での議論やマスコミへの情報提供なども検討する。

4. 当会独自企画案の具体化について

(1) 独自企画案の概要と体制、検討の進め方等について

住江事務局長より、代表世話人・事務局長の打ち合わせをふまえた提案が行われ、討論の上確認した。その要点は下記のとおり。

第2回常任世話人会(1.11)、第3回世話人会(2.11)で確認してきた企画案をふまえ、今後の具体化を、以下のとおり進める。

1) これまでの企画案の骨子と今後の進め方

①活動分野を三つに分けて分担し、企画案の検討や準備を進める。

- ・A、B、Cの各群は、企画案検討の各分野を示す。
- ・内容は、これまでの検討で出された、その分野で具体化すべき主な課題。
- ・担当は、常任世話人会として確認した担当者。
- ・世話人で担当をお願いしたい方は、各群の責任者などから世話人で担当の希望が出された方

A群—主に731部隊などでの人体実験を中心とする歴史検証

内容：大阪でのパネル集の作成の実績を継承し、新たな事実やその後の検証成果を補強していく。これまでの議論で出された主な課題は、看護分野、陸軍病院、各大学、1644部隊や、前回検証作業で残された課題の補足などである。

米国から返還された731部隊関連資料の防衛省への公開とその解析も含む。

担当：吉中(責任者)、石川、塩安、筋、小島(荘)、中泉各氏

世話人で担当をお願いしたい方：池田、刈田、川嶋、末永、土屋、松村、湯浅、吉田、若田各氏

B群—ドイツ等での検証史の教訓から日本は何を学ぶかの国際シンポ

内容：日独の比較検証史、米国（中国）などとの比較検証などを通じ、日本として学ぶべき教訓などを明らかにする。

ドイツの招聘は、ティル・バステアン氏（医師）が承諾された。ティル・バステアン氏の著書「恐ろしい医師たち—ナチ時代の医師の犯罪」の翻訳者：山本啓一氏は戦医研の会員でもあり、情報等も得ながら検討する。

ドイツとの検証史の比較を通じ、ドイツの検証の歩みの中で、検証への抵抗や、それを乗り越えてきた教訓などから、日本が学ぶ意義は大きい。

なお、ドイツ以外で招聘する国と対象者をどうするか。これまでの議論では、米国関係では、ペンシルヴェニア大学に研究者が多いこと。中国関係では、被害者の立場とともに、医療倫理（生命倫理）の視点から中国の医師・医学者による検証の到達点などが明らかにできるとよいのでは、の意見がある。ただし、国際シンポでは、日本を含め3カ国代表程度までが限度ではないか。

担当：小俣（責任者）、西山各氏

世話人で担当をお願いしたい方：児嶋、浜野各氏

C群—歴史検証の結果などから、今後の医療倫理に生かすべき教訓は何か

内容：「戦争と医の倫理」の歴史検証を通じて明らかにされた教訓を、これからの医療倫理（生命倫理）や平和な社会の実現にどう活かすのか。医学・医療の将来への提言等を検討する。

これまでの議論で出された主な意見では、731部隊の検証による医の倫理の医学的価値を考えることが大切。2001.9.11の米国で起きた同時多発テロの後に起きた炭疽菌事件（生物テロ）、豚エンフルエンザなどの感染症対策等にも関連するものであり、現在と将来の医療に関わる問題として検討が必要ではないか（関連する人として神戸大学・岩田健太郎教授など）。

担当：山口（責任者）、赤羽根、肥田、光石、車谷各氏

世話人で担当をお願いしたい方：飯塚、市野川（注記：6月の世話人会でB群担当に変更）、片平、小松、田中各氏

2) 今後の検討の進め方と企画決定の手続きについて

①今後の検討の進め方について

各群の担当で検討しながら、その内容を全体で調整、確認していくことになる。しかし、実際には、各群別に個別の会議を行うのは、地理的にも時間的にも困難なため、常任世話人会・世話人会の開催時に、担当分野別の会議も予定し、その結果を全体会議で再確認する方法を基本に、効率的に会議を進める。

ただし、検討課題の内容や進捗状況により、別日程で会議を予定することもありえる。

②企画決定の手続きについて

各群の担当で検討を進め企画素案をまとめるが、その内容は、世話人会（または常任世話人会）に報告、提案を行い、全体との整合性や内容的な正確性等を検討し、世話人会（常任世話人会）として決定する手続きを経た段階で、当会の企画案とする。

なお、前述の決定手続きでは時間的に対応できないなど、緊急の決裁事案が生じたときは、代表世話人と事務局長の4人の合議により、決裁・処理するものとする。

3) 開催会場について

医学会総会会場近くでアクセスもしやすく、費用負担も少ないことも考慮し準備する。

*国際シンポジウム

予定日 2011年4月9日(土)～10日(日)

(10日は医学会総会の閉会日のため、9日の開催も含めて日程を検討する)

会場候補 第一候補として東京大学医学部講堂を打診する。

*パネル展示

上記の会場予定、医学会総会展示会場との関係を含めて具体化する。

4) A群(歴史検証)の検証作業の具体化について

責任者の吉中常任世話人より、前回のパネル展示の到達点をふまえ、今後の歴史検証作業で検討すべき課題と方向の報告、提案が行われた(内容は、当日配布資料参照)。

今後の作業については、担当者の会議でこれまでの総括的なレクチャーにより共通認識を基礎にして進めることとした。

(2) 保団連医療研究集会(10.9～10:東京)での企画について

1) 第3回世話人会での確認内容を再確認した。その要点は下記のとおり。

◇「保団連医療研究集会」での企画の検討について(第3回世話人会会議報告より抜粋)
本会の独自企画と並行して、保団連では「保団連医療研究集会」(本年10月9日～10日、東京・都市センターホテルで開催)の中で、本会と連携した企画を予定している。本会として、下記の企画骨子で具体化を検討することとした。

<企画骨子>「戦争と医の倫理」シンポジウム(市民公開)

*A群(歴史検証)、B群(日独比較検証史)C群(医療倫理)の各責任者から到達点の報告。それを受けて「戦争と医の倫理」の総合討論(フロア討論を含む)

*総合司会(代表世話人から予定する)

なお、「保団連医療研究集会」は、保団連主催の集会であり、企画と運営の最終責任は保団連にあること。今回は、進める会が設立されたことと、来年4月の医学会総会が東京で開催されることもあり、進める会と連携して行う予定にしていること。企画内容の決定や準備作業の日程は、保団連医療研究集会のスケジュールに合わせる事となる旨も了承した。

2) 小侯常任世話人からの企画案(3)、シンポ「医療倫理」(案)について

他用で会議欠席の小侯常任世話人より、プレ企画での提案、及びTill Bastian氏との書簡で、国際シンポへの参加を承諾された旨の文書報告がされた。

なお、外国人シンポジスト招聘に当たっての費用負担等の基準は、前回の事例、方法を参考にして対応することとした。

小侯常任世話人の提案関連で、田中智彦世話人よりのシンポ「医療倫理」プログラム(案)と小松美彦世話人からの報告をふまえて検討の結果、下記の点を確認した。

提案された「医療倫理」シンポの重要性は、常任世話人会でも一致して確認した。しかし、この企画案で実施する場合は、最低でも3時間は要すると思われるため、保団連のプレ企画に盛り込むことは、物理的にかなり困難である。このため、保団連医療研究集会での企画とは別に、当会独自のプレ企画として、たとえば12月から来年1～2月頃に実施する方向で検討する。あるいは、保団連医療研究集会のシンポで反映させるとした場合は、シンポの中での「特別報告」やフロアからの「補足発言」などで対応することが考えられる。

以上の趣旨から、提案いただいた世話人関係者と相談することとした。

5. 各団体・個人への賛同と募金のお願いについて

- (1) 賛同者、募金、リーフの到達・活用状況と募金者へのお礼
事務局より、4月10日現在の到達状況（概要）が下記のとおり報告され、確認した。
- ①賛同者（個人）96人
 - ②活動募金 団体（10団体）173万円 個人（82人）66万円 計239万円
（この間の経費支出22万円で、差引残額217万円）
なお、募金いただいた個人には「募金受領報告書」（はがき）、団体には「募金領収書」を発行する事とした（文書内容も確認）。
 - ③リーフの活用状況
当初1万部作成し、これまでに7270部活用。大口注文が1万2千部あり増刷して対応した。
- (2) 今後の予定等について
さらにご協力いただける団体、個人の方々に賛同、募金をお願いし、リーフも普及する。

6. その他

- (1) 山口研一郎常任世話人からの資料
「戦争と医の倫理」の検証を一奈良・山本病院事件の本質（朝日21関西スクエア2010.4）の記事が紹介された。
- (2) 次回会議予定
第4回世話人会、2010年6月6日（日）
午前11時～午後2時まで各担当分野別会議、
午後2時～4時まで全体会議 東京保険医協会で開催。

以上